

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1171100751		
法人名	株式会社あすなるホーム		
事業所名	あすなるホーム庄和		
所在地	埼玉県春日部市西金野井169-5		
自己評価作成日	平成 30年 1月 15日	評価結果市町村受理日	平成 30年 3月 29日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社プログレ総合研究所
所在地	埼玉県さいたま市大宮区大門町3-88 逸見ビル2階
訪問調査日	平成 30年 2月22日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

理念に基づき利用者の意思・人格を尊重し、利用者一人ひとりに寄り添いその人らしく安心して笑顔で日常生活が過ごせるように努めています。ADL・QOLの向上に努め、レクリエーション等に力を入れ利用者の活性化を図っています。
 地域との関わりを充実していくため、地域包括及び近隣の地域密着型施設の協力を受けながら「認知症オレンジカフェ」を開催しています。また、近隣の学校とも活動を通じて交流を深め、地域資源を活用し参加を図っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

管理者は看護師資格を有し、看取りケアを連携医療機関と協力し、医療行為が出来る事業所として、積極的に受け入れている。強要のないケアを信条としており、随所で利用者本位の生活が見られる。至近の小学4・5年生がグループ分けをして三日間の来訪見学があり、高齢者との出会いの機会がある。小学生からお年寄りとの接し方等の質問があったりして、共に考えることで子供たちの社会参加は地域との接点でもある。近隣の和食店と相談し、全ての利用者に好きなものを選んでいただく外食の機会を作っている。職員も含めて多数での外食の機会は、利用者の喜びとなっており、職員も常と違う笑顔に出会う。「あすなる通信」での利用者の笑顔は家族にも喜ばれている。玄関に入って先ず目につくロールピクチャーは、季節の花を咲かせ、憩いの場となっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎日朝礼時に勤務者全員で地域密着型サービスの意義を心におき、あすなろホーム理念を唱和し共有しあい業務を行っている。	法人理念の他に、事業所目標を職員間で協議して取り決めている。地域交流と利用者一人ひとりに合ったケアを目指すとしている。朝礼や申送り時には理念の唱和も行っており、全体会議でも取り上げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣小学校のボランティア交流を受入れ、地域の行事へも参加するよう心掛けている。2年前より「子供110番」に加入し、地域の一員として交流を積極的に図っている。	地域包括との協賛でのオレンジカフェの他、併設デイサービスを中止したことより、独自でのオレンジカフェを二カ月毎に行っている。近隣の方と畑の収穫を共にしている。小学生の見学会は利用者に喜ばれる。	地域の方々との交流は、心掛けてはいるが思うようには進んでいない。目線を変えて、当ホームから地域の行事へ参加し、事業所として溶け込んでゆくことでグループホームの役割を知って頂きたい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近隣小学校との交流、中学生社会体験チャレンジの受入れ、介護保険相談員の定期訪問、認知症オレンジカフェの開催等を通じ、認知症の理解又相談を受入れ、地域の人々に向けて活かしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回運営推進会議の中で毎月の行事や取り組みを報告。市担当者、地域包括職員他と情報・意見交換を行い、一層のサービス向上につなげている。	市担当職員・地域包括・民生委員・家族の参加を受けて、二カ月に一度実施している。定例報告の他、ヒヤリハット報告には意見も多く、説明している。感染症予防の勉強会を兼ねたりもしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市担当者とは日頃から連絡を取り、また運営推進会議を通じ、実情やケアサービスの取り組みを報告、意見交換を行い協力関係を築くよう日々取り組んでる。	行政報告では、担当窓口へ行き意見交換し、福祉課職員とも連携し状況説明をしている。市が主催の地域包括ケアシステムやグループホーム連絡会では、市の担当者だけでなく、他の行政職員とも交流がある。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケアを目指し勉強会を行い、身体拘束を誘発する原因を探り除去するケアを行っている。生活リズムを整え、利用者一人一人の状況を見極め、不安・不快・孤独を少しでも緩和できるよう努め、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。また身体拘束委員会を設置し、定期的に委員会を開催している。	ゼロ方針を掲げており、不適切ケアのチェック項目を職員記述としている。感じてもらう事や気付きを大切と考え、ケアカンファレンスや申送り時に話し合っている。経験年数や年齢によっても段階的な教育を進めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止の徹底の為、勉強会や研修等に参加。また、利用者の身体確認を密に行い虐待がないか職員間で話し合い、虐待を見過ごさない現場環境作りをしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修に参加したことはあるが、内部研修は開催できていない。ニーズがあった際には関係者と話し合い、活用できるよう支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	事前に契約書を渡し一読して頂き、契約時に再度確認も含めて説明を行い理解して頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議や家族会で利用者や家族等の意見や要望を聞き、意見交換を行い運営に反映させている。	家族会では、事前にアンケートをお願いし、職員も参加している。多くの参加を募る目的から、土曜日開催としてみた。様々意見を貰う機会となっている。職員の顔写真入り紹介を掲示するに至った。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議、毎日の申し送りの時や随時個別面談を行い意見や提案を聞き、反映させている。	日々の過ごす中での表情変化から、個別面談を取り入れたりしている。新人職員には、教育も兼ね定期的な話し合いの場を持っている。業務改善を受けて、ユニット常勤7名体制の確保に努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者・職員個々を把握し各自が向上心を持って働けるよう、働きやすい環境作りを努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修や勉強会への参加の希望を積極的に受け入れ、参加した内容を施設内研修としケアの実際につなげている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	協会や市内グループホーム連絡会議に参加し、交流を図りサービスの質の向上に努めている。		
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	安心できるような声かけを行い、利用者の話を傾聴。一人にさせないよう、また周りの人と会話ができるよう間に入る等対応している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に施設内を見学して頂き、家族から不安な事や困っている事を聞き、家族が納得・安心して頂けるような関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前に本人・家族と面談を行い、要望・本人の生活状況を理解し、必要としているサービスの提供に努め計画作成をしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者ができることを理解し、洗濯物干し・たたみ、居室の掃除機かけなどを職員と一緒にやっている。 レクリエーションも一緒に参加し楽しみ、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族来所時に日頃の様子を報告し、実際に見て頂き、変化が見られた時には必ず連絡を入れている。利用者本人の気持ちを家族に伝え、共に本人を支えていく関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	愛用品や家具・写真などを居室に置き、できる限り安心できる自分の居場所を作っている。又、家族・友人の来所も希望に沿った支援ができるように努めている。	友人の来訪は多くはないが、現役時の社員が訪ねて来たり、お孫さんが誕生日や敬老の日に訪ねて来られ喜ばれている。家族と共に、以前から利用の美容院へ通う方もある。得意の雑巾を縫ってくれる方もある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食堂では極力気の合う者同士で座って頂き、トラブルにならないように配慮している。一人ひとりが孤立しないよう利用者同士が関わり合い、支え合えるよう支援に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了しても、本人や家族の希望があれば相談に乗り情報提供する等支援に努めている。		
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	今までの生活歴等を尊重し、本人の思い・その人らしさを大切に、時間をかけ生活になじめるように支援している。	散歩が趣味で出掛ける方には、職員と一緒に買い物に行ってもらう。手先が器用でロールピクチャー制作を限度なく行う方があり、職員が機転を働かせている。ケアの押し付けでなく、出来る事を支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	今までの生活歴・生活環境を尊重し、本人の想いを大切に、時間をかけて生活に馴染めるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一日の過ごし方、心身状態等常に現状を話し合い、把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	よりよく暮らすために本人・家族・必要な関係者との話し合いを常に持ち、意見やアイデアを反映した計画作成に努めている。	六カ月見直しとし、居室担当者他から変化の報告を受けての随時更新も行っている。家族の来館は週末が多く、誰もがプラン変更の説明は出来るようにしている。家族希望は穏やかな生活を望む方が殆どである。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアで気付いた事・工夫した事を記録に記入、朝・夕の申し送り時他随時カンファレンスを開き職員間で共有し、介護計画の見直しにも反映させている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	病院受診や衣服・消耗品・飲食物の買い物等、状況やニーズに即した柔軟な対応を心掛けている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	介護保険相談員の訪問、ボランティア、小学生との交流他、消防署の協力で防災訓練の実施を行い、安全で豊かな暮らしを楽しむ支援を行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族の意向を確認し、入居前からのかかりつけ医へ受診の際は情報提供を行い、安心して適切な医療が受けられるように支援している。本人・家族がきちんと納得した上で、協力病院の往診も受けられるようにしており、かかりつけ医との関係を大切にしている。	提携医の庄和中央病院から月二回の往診がある。変化ある時は、事前に電話連絡し受診に行き便宜もある。訪問歯科は週に一回来訪があり、口腔ケアも担当する。精神科医は家族対応だが情報共有している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常に利用者に関わり、変化や気づきを職場内の看護師へ随時報告・相談し、適切な受診や看護を受けられるように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	家族と連絡を取り合い、早期対応に努めている。家族と共に施設の看護師も同席し病状報告を受け、病院関係者と連絡を密に行い、関係づくりを行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に家族と本人に終末期についての説明とアンケートを行い、重度化した際には改めて意向の確認と、出来る事・出来ない事の説明を行っている。主治医往診の際、家族へ病状説明を行い、看護師と病院と連絡を密に取り支援している。	看取り指針を説明しており、その後毎年確認を取っている。主治医判断で家族説明時には、家族と管理者が参加している。通院で点滴を行い、ホームで針を抜くこともある。管理者が看護師でもあり、看取りの時は家族が泊まり込んでの協力もある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	看護師の指導により定期的に学び、応急手当や初期対応について実践力を身につけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回消防署の協力を得て昼夜想定で避難防災訓練を行っている。今後は地域とも協力体制が築けるようにしていきたい。	年二回実施し、一度は夜間想定で行っている。今年度は河川の氾濫を想定しての訓練も行った。車椅子で至近の小学校まで避難の実地訓練をした。防災計画書を市役所へ提出した。マニュアルも完備している。	
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	生活歴を把握し、利用者に合わせてケアを行っている。常に「自分だったらどうか」ということを念頭に置き、言葉かけや対応をしている。入浴・排泄等介助時にはプライバシーに十分配慮している。	請求用を含め三台のパソコンは持ち出し禁止とし、個人情報を守っている。研修は定期的に行い、尊厳の意味・声掛け・目線のとり方等話し合う。排泄や入浴への声掛けには気配りし、意識を持つこととする。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の意見や希望などを話せる環境を作り、時には選択肢を提示する等して自己決定できるように働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを大切にし、体操やレクリエーション等自由に参加して頂けるよう声かけしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	職員と一緒に洋服を選んで頂き、身だしなみやおしゃれが出来るように心がけている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの好みを把握し、食事を楽しめるよう支援している。時には外食へ行ったり、外部より弁当を取ったりして変化させている。	利用者に当日の献立を書いてもらい掲示している。お花見弁当と忘年会は外から取り寄せ喜ばれる。食事前には、早口言葉や口腔体操を行い、メニューの説明もする。畑での収穫物もお膳に出るという。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの身体状況に合わせ、その人に合った食事形態にしており、水分量も一日を通して確保できるようチェック表を作り支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自立している利用者には歯磨きを促し、義歯の利用者は洗浄しうがいをして頂き、介助が必要な利用者には口腔ケアを行い清潔に努めている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	チェック表で排泄パターンを把握、表情や行動を見ながら声かけし、トイレで排泄をできるように支援している。	チェック表・パターン表から個々の声掛けをしている。日中は、座位の取れる方にはトイレ誘導とし、便秘の方はカレンダーに記し家族への報告をする。夜間オムツ対応の方は、段階的な支援としている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々の便秘状況に合わせ排便コントロールを行っている。飲食物・緩下剤、運動やマッサージを行い排便調整を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	個々の希望やタイミングに合わせて入浴を楽しんで頂いている。また季節や肌の状態に合わせて処置等もやっている。	週三回の入浴とし、時間は希望に合わせて、重度の方へは機械浴も用意している。新入居時入浴が出来なかった方へは、家族と相談しながら工夫をした。乾燥肌の方にはワセリンやハンドクリームを塗布している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の意思や、身体状況・その日の体調を考慮し日中も休息して頂いたり、体操や日光浴を行い、夜間安心して休んで頂けるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬についてまとめたファイルを常に見ることが出来るよう設置している。症状の変化に合わせて看護師にその都度報告し、病院とも連絡を密に行い支援している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	毎日レクリエーションを行い、ゲーム・歌・体操・脳トレを行う際には利用者の力を活かした役割分担をし、協力し合い気分転換の支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候や利用者の状態を考慮しながら散歩等に出ている。外食・花見・初詣・買い物等、利用者の希望を把握し家族と協力しながら出掛けられるよう支援している。	外気浴で済ませることもあるが、出来るだけ誘導している。社用車で、蓮の花やひまわり、コスモスなど、季節の花を楽しんでもらっている。近くの江戸川へも出掛けている。家族と買い物や一泊旅行へ出掛けられる方もある。	年間計画で、ブドウ園やナシ園など、家族の協力も得て普段行けない処へ行く機会を増やすプランを作ったり、買物デイなどの生活の楽しみも考えて行く外出の機会を増やして行くことを期待する。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を管理できる利用者においては管理して頂き、職員と買い物出掛けの際に本人に支払っていただくよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族からの電話には直接お話して頂いている。年賀はがき等を書いて頂くよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	天候に合わせて光・温度を調整し、また、季節に合わせて飾り付けを行い居心地良く過ごせるよう工夫している。	湿度管理から、タオルなどを手すりに掛けて配慮している。玄関を入れて目に入るロールピクチャーは四季を感じる作品で、表彰を受けたほど立派である。壁には、利用者が色塗りをしている季節の絵を掲げている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂ではテーブルや座席の配置を工夫し、気の合う者同士で思い思いに過ごせるようになっている。和室コーナーもあり一人でゆっくりくつろいだり、利用者同士で談話できるようになっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた物や愛用の家具を置いたり、家族との写真を飾ったりして居心地良く安心して過ごせるようにしている。	備品として、エアコン・ベッド・クローゼット・照明の他洗面台がある。洗面台は口腔ケアにも使っている。思い出の品として、籐の椅子や仏壇を持つ方もある。自分で部屋の掃除をする方もあるという。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室のドアにはわかりやすく名前を掲示、トイレも目立つようイラストと文字で案内をしている。手すりを設置し、安全に移動できるようになっている。		